

誰もが暮らしやすい

## バリアフリー社会を目指して



障害者週間は、障がい福祉への理解と関心を深め、障がいのある人の自立と社会参加を促進する目的で定められています。

障がいのある人もない人も、互いに認め合いながら支えあう共生社会を実現するためには、一人一人がそれぞれの役割と責任を自覚し、主体的に取り組むことが大切です。

市では、共生社会を実現するための取り組みの1つとして、スポーツを通じて交流を深めるなど、障がい者スポーツの振興に努めています。障がいのある人もない人も、一緒に楽しむことができる「障がい者スポーツ教室」を、長崎県障害者スポーツ協会と市身体障害者団体連合会の協力を得て開催しています。

また、市教育委員会では、市内

### 「心のバリアフリー」 アニメーション教材公開中

#### 「心のバリアフリー」とは…?

さまざまな心身の特性や考え方を持つ人が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支えあうことです。そのためには、一人一人が行動を起こし、継続することが必要です。2020年東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局のホームページで、「心のバリアフリー」について学ぶアニメーション教材を公開しています。ぜひ、ご覧ください。

心のバリアフリー オリパラ



の小中学校を対象に、日本財団パラリンピックサポートセンター主催の『あすチャレ！スクール』を開催しています。子どもたちは、パラアスリートの講話やパラスポーツ体験を通して、「他者のことを自分のこととして考える心」や、「障がいとは何か」などを学んでいます。

さまざまな人とコミュニケーションをとる際に、知っておきたい知識や心の持ち方を学び、一人一人ができることから始めてみませんか。



## ボッチャをご存じですか？

ボッチャとは、重度障がい者のために、ヨーロッパで考案されたスポーツで、2020年東京パラリンピックの正式種目としても採用され、注目が集まっています。目標球(白)に、自分のボール(赤や青)を6球ずつ投げ、どれだけ目標球に近づけられるかを競う対戦型のスポーツです。障がいなどでボールを投げる事ができなくても、アシスタントのサポートやボールを転がすための補助用具の使用が認められていて、誰でも楽しむことができます。

## ボッチャの魅力とは？

ボッチャは、子どもから高齢者まで、みんなで楽しむことができます。障がいの有無はもちろん、障がいの程度や種類も関係ありません。視覚障がいのある人には、手を叩くことで目標球がある位置を知らせたり、聴覚障がいのある人には、手話通訳などのサポートのもと、一緒に楽しむことができます。

市身体障害者団体連合会では、平成28年からボッチャのスポーツ教室を実施し、現在も毎月数回実施しています。



## 大会新記録樹立！

全国障害者スポーツ大会（福井しあわせ元気大会）  
水泳肢体男子2部の自由形で2冠

## 原口 幸雄さん

右下肢に障がいのある原口さんは、水泳競技で「2020年東京パラリンピック」出場を目指しています。9月に開催された「ジャパンパラ水泳大会」では、50m自由形と100m自由形で優勝、100m平泳ぎで3位に入賞。10月に開催された「全国障害者スポーツ大会（福井しあわせ元気大会）」に県代表として出場し、25m自由形と50m自由形で、ともに大会新記録というすばらしい成績で、見事2冠を達成されました。



## ボッチャを楽しんでみませんか？



▲ボッチャ指導者  
飛口さん・相良さん

ボッチャは、どなたでも気軽に楽しめます。ぜひご参加ください。



■大村市身体障害者団体連合会

☎53・7002(月・水・金曜日10時～15時)

## 航空旅客運賃割引の適用範囲が拡大

一部の航空運送事業者(日本航空グループに属する6社)において、障がい者に対する航空旅客運賃の割引適用範囲が拡大されています。

- 精神障害者保健福祉手帳所持者も割引されます。
  - 満12歳以上の障害者手帳所持者は、障がいの程度にかかわらず、手帳を提示した人全員が、「障がい者本人+介護者1人」まで割引されます。
- ※詳しくは各航空運送事業者にお尋ねください。